

# はでんや 波伝谷 に生きる 人びと



東日本大震災で未曾有の被害を受け、

被災地となった三陸沿岸。

しかし、そこには震災以前から土地に根ざし、

生きてきた人びとの営みがあった。

あれから、5年。

再び、その地で生きていく人びとの姿を伝えたい。

2016年2月6日〔土〕 13:00～16:15(開場12:30)

〔場所〕 国立民族学博物館 講堂

申込不要「当日先着順 定員450名」 要展示観覧券「一般420円」

※入場整理券を11:00から本館2階観覧券売場にて配布します。

司会：日高真吾 解説：政岡伸洋

監督・撮影・編集：我妻和樹 製作・配給・宣伝：ピストウリー・プロダクツ 2014年 日本 135分

# 波伝谷に生きる人びと

みんなくでは、東日本大震災以降、被災地の生活文化への支援を継続して実施しています。現在、震災の記憶の風化や、震災以前の生活の記憶が失われつつあることへの課題が浮かび上がっています。そこで今回、震災以前から宮城県南三陸町波伝谷の生活を撮り続けてきた我妻和樹監督作品の「波伝谷に生きる人びと」を上映します。ここでは、我妻監督と波伝谷の方々をお招きし、震災以前の生活や震災時の記憶がなぜ大事なのか、皆さんとともに被災地の将来について考えます。

## あらすじ

宮城県南三陸町の海沿いに位置する戸数約80軒の波伝谷（はでんや）部落。東日本大震災による津波で壊滅したこの小さな漁村に生きる人びとの、震災前の日常を追ったドキュメンタリー映画。物語は2008年の3月に始まり、漁業者たちの日々の仕事や地域の年中行事、そこでの多様な人間関係などが、ゆったりとした土地の空気とともに描き出されていく。過疎化が進みながらも豊かなくらしを育んできた波伝谷の人びとの時間と、そこに寄り添う作者自身の時間。二つの時間が重なりながら、物語はやがて2011年の3月11日へと向かっていく。

監督・撮影・編集：我妻和樹

製作・配給・宣伝：ビーストーリー・プロダクツ | 2014年 | 日本 | 135分

## 監督：我妻和樹

震災前の南三陸を舞台にしたドキュメンタリー映画『波伝谷に生きる人びと』（PFFアワード2014 日本映画ペンクラブ賞）監督。1985年宮城県生まれ。2004年4月に東北学院大学文学部史学科に入学。翌2005年3月より、同大学の民俗学研究室と東北歴史博物館の共同による、宮城県本吉郡南三陸町戸倉地区波伝谷での民俗調査に参加。2008年の報告書完成と同時に大学を卒業し、その後個人で波伝谷でのドキュメンタリー映画製作を開始する。

司会：日高真吾 国立民族学博物館 准教授

解説：政岡伸洋 東北学院大学 教授

挨拶：野林厚志 国立民族学博物館 教授

## プログラム

- 13:00 — 挨拶（野林厚志）
- 13:05 — 作品解説（政岡伸洋）
- 13:10 — 映画上映
- 15:25 — 監督挨拶（我妻和樹）
- 15:45 — 座談会：「これからの地域を語る」  
—波伝谷に生きる人びとの視点から



## 国立民族学博物館

●開館時間…………… 10:00～17:00(入館は16:30まで) ●休館日…………… 水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌日が休館) 年末年始(12月28日～1月4日)

●観覧料…………… 一般420円/高校・大学生250円/小中学生110円

※観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

### 交通のご案内

●大阪モノレール… 「万博記念公園駅」徒歩約15分\* 自然文化園窓口で、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。  
「公園東口駅」徒歩約15分  
\* 自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。

●バス…………… [近鉄バス] (阪大本部前行き) 阪急茨木市駅から約20分、JR 茨木駅から約10分、「日本庭園前」下車徒歩約13分

●乗用車…………… 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分  
\* 「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

[大阪・万博記念公園]  
〒565-8511  
大阪府吹田市千里万博公園10番1号  
企画課 博物館事業係  
Tel:06-6878-8210 Fax:06-6878-8242  
www.minpaku.ac.jp/

